

はじめに

本校の研究紀要「古仁屋紀要」は3年に1回、ホームページに掲載する形で発行していますが、今回、第14号を発行する運びとなりました。本紀要には本校職員が日々行っている授業等の教科指導や進路指導、部活動指導、特別活動等の多くの教育実践や研修・研究のうちの一部を掲載してあります。

さて、授業において私たち教師に求められる役割は様々です。

教壇というステージの上で生徒を前に授業するので、演技者 (actor/actress) としての役割が必要です。生徒から考えを引き出し、それをまとめてあげていくので、オーケストラの指揮者 (conductor) としての役割も必要です。あるいは、生徒にやる気という木を植え、大事に育てていく仕事だから、庭師 (gardener) としての役割も必要です。

昔の授業はトップダウン的に教え込む注入型の講義形式が主流でしたが、学習者中心の授業 (learner-centered lesson) が叫ばれるようになって、教師には進行役または司会者 (facilitator) としての役割が求められるようになってきました。また、最近では生徒自身が積極的に学び、授業が活性化するような「アクティブラーニング」が求められています。

このように、教師に求められる役割は授業形態や時代によって変化しています。その中であって、これから長い人生を生きていく生徒たちが高校時代に学ぶべきことは何なのか、それをどのように教え、どのような授業展開をしたらいいのか、私たち教師は時代の先を読み、生徒の実態や取り巻く社会環境を踏まえて教育実践をしていく必要があります。そのためにこそ、研修や研究は必要不可欠だと考えます。

アメリカの教育哲学者 William Arthur Ward が、「偉大な教師は (生徒の心に) 火を付ける “The great teacher inspires.”」と言っていますが、私たち教師は生徒の心をインスパイアし、やる気にさせる教育を目指して、研修・研究や教育実践を重ねていきたいと考えています。

最後に、多忙な中、本紀要の執筆・編集の任に当たった職員各位に感謝の意を表し、発行の言葉といたします。